

部会報告

木工部会

12月12日(日) 新開会員の工場を借りて昼から約3時間、西区大工教室の材料の加工にかかった。参加者 有馬・平松・八木(道)・新開・鴻上・岩元・光川(記 光川 隼子)

パソコン部会

事例記録及び活動記録の画像処理用にスキャナーを購入し、ATC中北事務所に設置しました。真・図の保存に使用します。

活動記録カードの管理を能勢会員(中北事務所所員)担当としました。活動内容を記入の上、速やかに中北事務所までFAX願います。(記 和泉 秀子)

経理部会

12月16日午後3時、市社協にて岩本・後藤(美)・光川で、3月決算と12月18日の実行予算の報告を兼ねて、現金と預金の残高確認を行った。(記 光川 隼子)

福祉と生活用品部会

12月16日三浦会員事務所にて打ち合せ(三浦・光川)1月より毎月第3水曜日午後6時半、市社協にて福祉

産業のすきまを狙った生活用品の研究を行います。(記 光川 隼子)

今林の里建設支援部会

5月25日に第1回の部会を開催して以来、二月まで計7回の会合をもつて、施設運営の基本的課題を大和川園のスタッフと共に様々な視点から検討を重ねてきました。その成は、これからの障害者施設のあり方についての重要な展望を構築する内容として認識する事ができます。

ことに、障害者の人権擁護という当然のテーマに沿って、それをどう実現できるのかをソフト、ハードの両に亘って具体的に討議を深め得た事、そして現実に行進する施設建設にも反映する事ができた事は大いに自負できる事です。



舞洲での陶板タイル製作

また福祉施設建設そのものにおける市民参加の試みとして、延べ8人に及ぶ参加者を集めた陶板タイルも焼成手順に入っており、社会に開かれた施設づくりのシンボルが完成しようとしています。

施設建設は2月末竣工、4月開所にむけての最終的な段階を迎えた事で、部会の一応の目的は達成できたとして、一応の活動に幕を引く事になりました。

合宿会議報告

恒例となつた年末の合宿会議は、12月28日厳寒の羽衣青少年センターに延べ2人(うち宿泊2人)の会員が参加して行われました。

夕食までの第1部討議では、まず製作部会より手すりなど基本的な活動に関するコストの基準値が示され、当会のコストが市場価格に比して安価であることが確認されましたが、さらに詳細な原価の把握が必要だとの意見が出されました。ついで、本年度残された会期の活動経費に関して、予定される計画とその予算および本会の資金余裕が比較検

掲にあるように12月の合宿会議でその旨、中北部会リーダーからの報告と大和川園、佐藤園長よりの成報告が了承され、今後は、この成を新たな課題に向けて展開してゆく事になりました。

新たな課題として、さくく4件の具体的要請があり、部会は名称も一新して、活動を継続します。(記 中北 清)

討されましたが、会のPRとして広範囲に会報を送付する計画等、大きな経費を要する事業は当 自粛せざるを得ないとの結論を得ました。次年度活動計画とその予算配分は、できるだけ早期に検討すべきであるとの意見が一致しました。

続いて、今林の里建設支援部会の活動経過が報告され、その活動に一応の終止符を打つとともに新たな複数の課題が紹介され、部会を再編成してこれらに向かつて活動を継続する事になりました。

休憩をはさんで、最近の住宅改造事例から都島区H邸および寝屋川市K邸を取り挙げて、本会が取り組む住宅改造のたすべき役割

熱心に討議した合宿会議



や限界、社会性など、根本的な議論が交わされました。

この中で、都島区H邸の経験から、今後の事例について、当会のたすべき使命の範囲や方向性についての事前検討といったものが非常に難しく、また重要であることが確認されました。

また寝屋川市K邸に関しては、短絡的に要望に沿って住宅改造に走る事は本質的な問題解決にはならないとの見地から大和川園の藤原氏にも参画してもらって、家族との対話から始める事になるなど、かつてない建設的な展開が生まれました。

反、いわゆる縦割りの弊害(?)のような傾向も見受けられるという認識、そして介護保険のスタートを期して参入が現実となる膨大な福祉産業が林立する中で本会がたしてどのような評価を受け得るものかという危惧の念が示され、本会の特質を今一度見据える事が肝要であろうとの話があり、今後は、ただニーズに即した対応に徹するだけではなく、社会制度改革にも取り組める力をもつて、様々な技術開発や情報発信にも努めて行きたい。そしてそんな本会をより正しく、より多くの市民に理解してもらおうようPR活動も大切である事が確認されました。

当然の帰結として、近い将来でのNPO法人格取得を視野に入れた、本会の体質改善が共の認識として、確たるものになりつつあります。

後半はアルコールも入つて、いよいよ討議は白熱。夜半に及ぶ熱のこもった懇談は、簡略な記述に著すを許さず、ただ想像にお任せするのみ...

皆さん、お疲れさまでした。(記 中北 清)



大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市ボランティア情報センター内 福祉と住環境を考える会「ふくてつく」

発行責任者 代表：杉浦史郎 TEL 06-6765-4041

高齢者や障害者の住環境改善を目指すボランティアグループです

ほたる草

アンチボランティアから推進派に 行政主導の福祉に疑問



二月定例学習会

平成二年二月6日(土) (社福) 大阪市社会福祉協議会 大阪市ボランティア情報センター 主査 脇坂 博史 氏

ふくてつく生みの親でもあり、ボランティア情報センター主査の脇坂氏に『ボランティア活動』と私一四方山話』というテーマでお話を伺いました。

いると考え、ずっとボランティア活動に批判的でした。それが今のようにボランティア推進派に百八十度変わったのは平成3年の「欧州社会福祉視察」に参加してからのことです。行政主導の福祉には限界があり、ボランティアが必要であると実感されたそうです。その前年より業務としてボランティア活動に携わっており、企業の社会貢献活動も広がりを見せました。

ふくてつくは平成5年、社協が初めて作ったボランティアグループとして、誕生しました。その後も社協によって、様々なボランティアグループができ、活動しています。その頃ボランティアに対する関心が高まってきたにも関わらず、市民に情報が伝わってないと感じ、平成6年にボランティア活動情報誌「COMVO」を発行されます。また高齢者・障害者・ボランティアなど地

域住民が一緒になって語り合う場づくりとして「サロン活動」を推進し、各地に広がりがつあります。この活動は社協職員もボランティアで参画されており、21世紀の地域福祉活動の基になるのではないかと感じます。(その他にも様々な実績をあげられていますが、紙の都合上割愛させて頂きます。)

ボランティアグループの成熟過程(三段成熟度)を紹介いたします。①まず何よりもボランティア同士、会うことが楽しいこと②心のバリアフリー(健常者と障害者の共同作業)③障害者自身のボランティア活動

た。私も「COMVO」がきっかけでふくてつくに入会したことを考えますと、ふくてつくにとっても私にとっても縁の深い方です。興味深いお話をありがとうございました。(記 和泉 秀子)

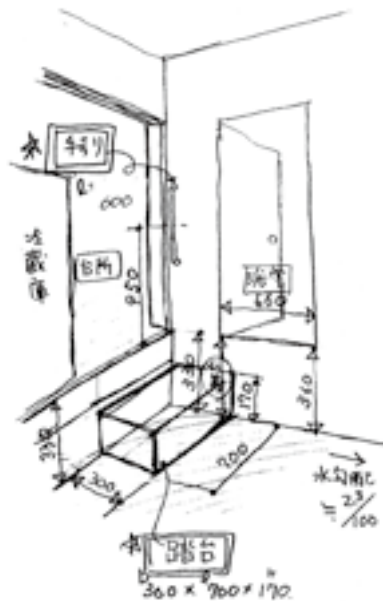
定例会のお知らせ

- 2月 日時 2月5日(土) 午後1時30分~4時 場所 大阪市社会福祉センター 3階第5会議室 内容 討論会 配 次年度活動計画・予算分計画他
3月 日時 3月4日(土) 場所・内容 未定



2000年の小くちゃんの初夢





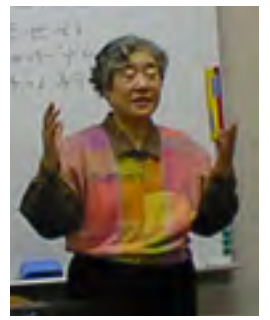
堺市Nさん 92歳 女性  
**A** 勝手口の段差解消  
**B** 御本人は特に身体が不自由というわけでは無く、大変お元気でした。ただ勝手口の段差がかなりあるの(高さ11330) 早めに改善しておきたい、との御希望でした。

# 事例報告

**A** ニード  
**B** 日常生活と家庭状況  
**C** 解決方法  
**D** 改善後の状況と考察

**C** ①踏み台製作  
 長さ700×奥行300×高さ170mm  
 ② 縦手すり(長さ1600mm)を上がり框近くの壁に取付ける(台所の床より手すり中心までの高さ1950)  
 全額自己負担となります。

## 「語り」は自分にも聞かせるもの 童心のみずみずしさをいつまでも



12月定例学習会  
 平成二年12月4日(土)  
 (社福) 水仙福祉会  
 水仙の家  
 園長 禅定 正世 氏

今回は約30年前より子ども文庫や語りをしてボランティア活動をされている禅定先生をお迎えし、豊富な経験に基づいた人間味あふれる暖かいお話と「語り」をたっぷり2時間拝聴させて頂きました。

「もう88歳、私も老いの入口に入りました。私の所属するデイサービスセンターでは、私がしてもらいたいことやしゃべってほしいことを、利用者である高齢者にしてあげてほしい、また言ってあげてほしい、と職員に注文します。

よく語り、よく笑うをモットーに、施設ではなく家という感覚を大事に運営しています。そして公共の施設というイメージから脱却するよう心がけています。当施設利用の方々は幸せだと思います。ごく自然体で接し、人権を無視しないからです。」

先生は5歳のときお母さんと死され、やさしいおばあさんに育てられました。幼い頃、そのおばあさんからいろいろな民話や童話を語ってもらったことが先生の生き方の大きな要因になったようです。

孫に私が生きたという証を残してやりたいと思つています。死して生きるということ。死して生かすということ。先生は「語り」が始まります。詩集「真白でいるよりも」(谷川俊太郎著)の中の「夕やけ」という詩で、大変人間のくもりを感じさせられました。「始まりも終わりもない一本の縄」ということが感動的でした。

よく声が、言葉と言葉の間(ま)の取り方が素晴らしい、さすが語り師のプロだと感心しました。「今回のテーマの『豊かな老後』の『豊か』とはもちろん精神的なものです。人間をとると失うものがいっぱいあります。最後に残るのは恐怖に対する本能的な自己防衛の意識だと思つています。風呂に入つて気持ちよかつたと言え、老人も最後は風呂に入るのを嫌がるようになります。」

「老夫婦」という絵本の語りと同じ曲名のジャンソンのテープも聞かせていただきました。先生のデイサービスセンターでのお誕生会等ではその方の若い頃の歌も歌われるが、語りも行っておられるとのこと。「人間いつまでも童心のみずみずしい

心を失つてほしくありません。語りにはヒトに聞いてもらうと共に自分にも聞かせています。」

最後に「ほうすけのひよこ」という絵本の語りを披露されました。禅定先生の働きかけで28年ぶりに復刊された絵本だそうです。あつという間に2時間、まだまだ先生のお話をお聞きしたかったのですが・・・この例会のスピーチをお願いに伺つたときの雑談で、先生がこんなことをおっしゃいました。「私にとってボランティアは究極の喜びです。だからボランティアに身銭を切るのには惜しくありません。」

### 事後検証部会報告

12月9日に都島区H邸の検証を行いました。この件はかねて、その引き受けの是非に始まり、助成金が思うように使え、現実とあまりにも多くの問題を含んだ改造課題、そして当会が奉仕しうる限界等々、会員の心を悩ませ続けてきた案件です。

そもそもご本人の要望の

真意はどこにあつたのか、日常お世話されているヘルパーさんたちの願いは？

限られた福祉予算の範囲で何が実現し得たのでしょうか。今にして思えば、初期診断担当の畑会員が冗談まじりに言われたとおり「見なかつた事に」せざるを得なかつたのが本当だったかも知れません。けれども精いっぱい何とかしなければという畑氏はじめ初期診断メンバー、製作参加メンバーの思いと努力の成を認識する事ができました。

しかしながら、結としてヘルパーさんたちの見解では「これではまだ住めない」といいます。確かに、床は合板のまま冷たく、老朽した壁は砂状にほろほろと崩壊しそうで、まだまだ手を加えなければ住み難いのは無理もないところです。

さりとして、さらなる費用の捻出がない以上、当会がこれ以上対応する事は不可能であるし、たして、どこまでの環境を整えれば、希望(?)り1階に居を移されるのか、それが今後の彼らのライフプランにどのような意義があるのか、不透明な部分が多く、もちろん当会が一方的に多額な費用を伴う住宅改造を提案す

るような事は避けねばなりません。

今回の件は、今後のニーズに対して、当会がたす役割について多くの示唆を与えているようです。すなわち、住環境改善ニーズにおける本人の真意、福祉行政の意志をただヒヤリングし承る事を越えて、十分な討論を重ねる事の必要性がまじり挙げられます。その中で、それぞれの意志の確かな確認をするともに、こちらの立場や考えを理解させ、場合によっては本人に対しては自助努力の勧め、生活習慣を見直す助言をなし、行政に対しては、助成のあり方への提言をぶつける事なども考えねばならないでしょう。

傾向として、当会に寄せられるニーズは益々難しい判断に迫られる物の比重が高まると考えられ、それらは活動を遂行した後にないという課題がなんであったかが見えてこないのが宿命かも知れません。

事後検証部会は、後だからわかるそんな視点で、多くの教訓を拾い出して、今後の診断に役立つよう活動を展開して行きたいと考えています。(記 中北 清)

今川学園  
 ふれあいまつり  
 12月3日(祝)文化の日、今川学園ネットワーク施設が開催するふれあいまつり



## 元氣・賑やか・出会い 親も夢中、子ども木工教室

(記 山本 尚子)  
**D** 後藤氏より連絡があり、初めての作業となった。勝手口から浴室への上り口の手すり踏み台取付け、先に製作された踏み台に我が家でニス塗りをした。どんな家人が利用されるのかと思ひ浮かべながら1時間程で完了。

設置当日は後藤氏同伴で地図に迷いながら依頼者宅に到着。あまり仕事(ガラ

ス販売施工)では緊張しない、なぜか固まった自分が不思議である。まず手すりを木ねじを使って取りつけ、踏み台のガタツキを調整して滑り止めのラバーを両テープとボンドで接着し完了。約1時間余りの作業であったが、緊張感の後、家人から喜びのことばを頂いたことでホッと、充実感を味わわせて頂いた。

(記 堀 満雄)

で、子ども木工教室を開きました。今回は参加費が必要で、そのせいか出だしが悪く、参加費を下げることも検討しましたが、そのうち参加者も増えていつもの賑わいとなりました。

木を切つていた子が誤つて手をノコギリの刃で擦つてしまいました。こちらの応急手当が早く、子どもも気に取り直してまた元気に木工に挑戦し、ホッとする場もありました。

いろいろなふれあいまつりの中で木工教室は行われ、

元氣・賑やか・楽しさ・出会いを与えてくれました。参加者 杉浦・平松・有馬・岩元・中北・鴻上・八木(道)・後藤夫妻・脇坂(社協)・光川  
 (記 光川 隼子)



(美)・八木(道)・光川(記 光川 隼子)  
 池島ふれあいまつり  
 12月23日(祝) 勤労感謝の日、朝からあやしい空模様の中で池島ふれあいまつりの子ども木工教室が行われた。雨がぼつぼつ降り出し、急ぎよシートをテント代わりに。杉浦さん、平松さんも慣れたもの、手早く出来あがり、雨をしのぐ。そのうち雨も止み、人も増えはじめた。

子どもや親が夢中で木工に取り組んで昼食も忘れていた。こういう気持ちで物作りの楽しさであり、だいたいご味であると思う。ベニヤ板でのこぎりの使い方を自分なりに工夫して会得している子、一つではもの足りず沢山作りたい子、子どもたちは創造力をふくらませている。

今年はこの池島まつりが最後であった。この1年間を振り返つてみて、1歩ずつ自分の力をつけていきたいと思う年であった。来年はイベント毎に作品を作り、少しでも人に教えていけるようになりたいと思つている。

参加者 新開・杉浦・平松・岩元・有馬・光川  
 (記 光川 隼子)